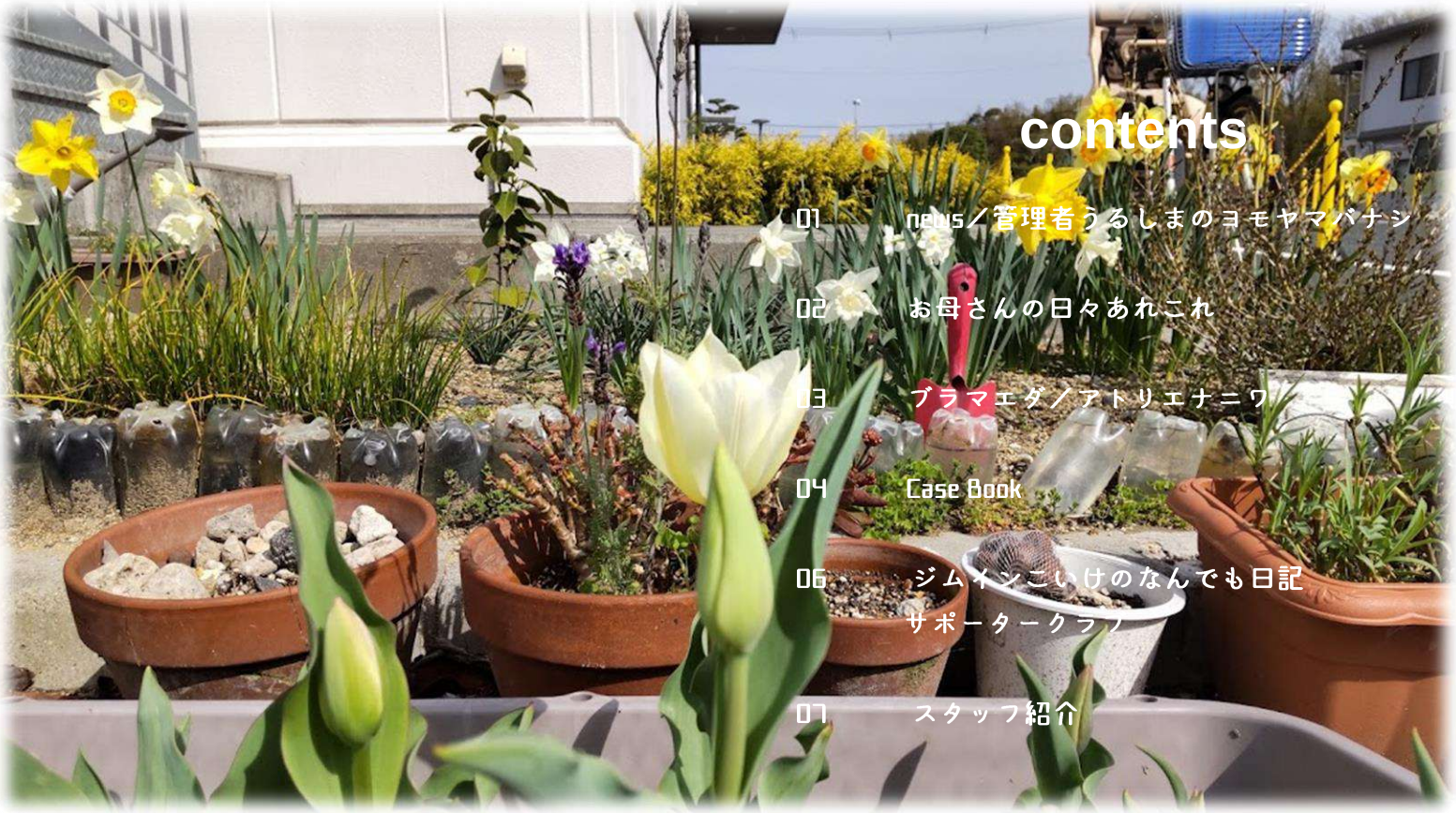
なにわたいむず

No.106



contents

01 news／管理者うるしまのヨモヤマバナシ

02 お母さんの日々あれこれ

03 ブラマエダ／アトリエナニワ

04 Case Book

06 ジムイシこいけのなんでも日記
サポータークラブ

07 スタッフ紹介

自動販売機が設置されました！

3月、ライフサポートなにわの敷地内にジュースの自動販売機が設置されました。また設置されただけでなく、月に決まった本数は社員証をかざせば無料で頂けるということになっています。これらにかかる費用を「なにわの里と歩む会」から頂いております。心より御礼申し上げます。

これからますます暑くなってまいりますから、冷たい飲み物はスタッフにとってなによりのエネルギーになります！こんなふうに応援をして頂けることに、改めて感謝の気持ちです。（小池）

NEWS

『柏原市発達障害児等支援事業』を受託（2022年4月～）

この4月からきっずサポートなにわ（以下、“きっず”とする）が柏原市の委託として『柏原市発達障害児等支援事業』を受けることとなりました。「発達障害児への個別療育」と「ペアレントトレーニング等の家族支援」に対して、市の事業として新たにスタートを切る形となります。

きっずが開所し、10年が経ちました。これまでの子どもたちへの関わりやご家族・地域の皆様と共に歩んできた道のりが評価されたことを感慨深く感じるとともに、今後は市のサービスとして子どもたちやご家族・地域の皆様に接することができることをうれしく思います。この間、きっずを支えていただいた皆様に心より感謝いたします。今後も地域の身近なサービスとして必要とされる事業所であり続けるよう努力していきたいと思います。（漆嶋）

管理者コラム

新しい生活・新たな一歩

2022年度が始まりました。法人内でも、3名の新任スタッフの入職や数名の部署異動、スタッフルームの変更など、随所に新しい風が吹いています。かくいう私もこの4月から入職時以来の電車通勤となりました。起床時間が早まるなど、生活が新しくなった感じを受けています。新しい生活が始まると、今まで必要と感じていたことが案外そうでなかったり、気にかけていなかったことが自分にとって重要だったりすることに気付いたりします。変わることはエネルギーのいることですが、新しい自分に出会えるかも知れないことを考えると、たまにはあってもいいかなと思う今日この頃です。

たわいもない話から始まりましたが、年明けからのオミクロン株による第6波の猛威を、ライフサポートなにわの利用者さんは一人も感染者を出すことなく乗り越えることができました。スタッフに陽性者が出るたびに、現場は防護服を着て現場に入ることを繰り返しました（4～5回は繰り返したでしょうか）。府内の高齢者施設では第6波で630件ものクラスターが発生したとのこと。府内の他の障害者施設（入所系）では利用者の8割以上が感染したとの話を多数聞きました。まさしく脅威でした。その脅威の一方で、オミクロン株の感染力と重症化率の低さから、「感染しても仕方ない」「以前よりも危険度は下がっている」との声を聞くこともあり、自分自身も以前より意識が下がっていることを実感します。ですが、第6波の死者数は第4波、5波と比較して2倍、3倍であり、より警戒が必要なレベルであることは間違いありません。緊張感を維持するよう自分に言い聞かせる今日この頃です。

法人としてお世話になった篁一誠氏がこの3月で現役を引退されました。五十数年に及ぶ自閉症の方とその家族への関わりから得た知識や経験を惜しみなく我々に伝えていただきました。この場をお借りし、あらためて感謝申し上げると共に、我々は新たな一歩を踏み出す決意を致します。篁先生、本当にありがとうございました。

ヨモヤマバナシ

コロナが終わったら毎年恒例の有馬温泉へ✨

私が小学2年生の頃、同い年の女の子と1年間ピアノ教室に通っていましたが、発表会の日に簡単な曲で失敗してしまい、私には合わないと感じてやめてしまいました。ピアノを習っていた時は家で毎日練習をしていたため、それから解放されて嬉しく感じたのを覚えています。

また、10 年間ほどガーデニングを続けており、庭にパンジーやチューリップを植えていました。ですが、腰痛がある上、胃潰瘍になってしまい、続けることが難しくなって断念しました。

以前までは、電車に乗ってあべのハルカスへ行ったり神戸の友人に会いに行ったり、遠出をしていました。なかなか今はコロナもあるので出かけることができていません。コロナが終わり次第、毎年家族で行っていた有馬温泉へ旅行に行きたいと思います☺！

by K

お母さんの日々あれこれ

お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

子どもの成長とともに…

最近、**『お母さんらしくいること』**をやめました。子どもたちが大きくなったからこそかもしれませんが、子どもたちに対して、親としてではなく、“一人の人”として関わるようになりました。お母さんだって心配もするし、しっかりしているわけではないよ、と自分の弱さや想いを正直に出しています。「最近のママ、私たちのことを信用してくれるようになったよね」と子どもたちの言葉通り、互いに認め合う、そうすることで、子どもたちは今までよりも自身で考えて行動できていたり、時には私の悩みにも面白いアドバイスをくれたり、すっかり助けられています。

気が付けば、家族が出かける前には必ず玄関まで行って、「いってらっしゃい！」と明るく見送っている長女。どうやら大好きな漫画の中で「別れはいつ来るかわからない」「悔いが残らないように」と感じたみたいで。見送られる側を経験した私も、嬉しくて気持ちがよくて♡忙しい朝であっても、家事の手を止め、**『玄関での気持ちがいい「いってらっしゃい！」』** を私も始めています！

担当者コメント欄
今回は、やめた習慣とはじめた習慣についてお話していただきました。お母さん方のインタビューを読んで、私も趣味や何か習慣付けることを始めてみようかな、という気持ちになりました☺！
インタビューさせていただきありがとうございました！
（添野・忍穂）

今回のテーマ

やめた習慣

はじめた習慣

理事長マエダが、ブラブラするコーナーです

「大阪府庁」をブラブラ

はじまりました「ブラマエダ」。今回は大阪府障がい福祉室の山田総括主査をブラブラと訪ねました。

マエダ　「いつもありがとうございます。現場第一主義の山田さんにご登場いただき、感謝、感謝です」

山田さん「いえいえ、いつも楽しみにしている『なにわたいむず』に登場できるなんて、夢のようです(笑)」

マエダ　「今回は現在、山田さんが担当されている重度知的障害者の暮らしの場の確保ということについて、お話が聞ければと思うのですが」

山田さん「はい。とても幅広い、様々な要素が絡み合った、大きな課題だと感じています。重度知的障害者の暮らしの場は圧倒的に不足しています。ハードの問題も大きいですが、大阪府では、そんな状況を少しでも改善していけるように、現場のソフト面での支援を進めています」

マエダ　「現場のソフト面の支援というのをもう少し詳しく教えていただけますか」

山田さん「はい。きちっとアセスメントをして、個別に専門的な支援を進めることで、安定して地域のグループホーム等で暮らせる方を増やせていければと考えています。より根本的には、早期療育や一貫支援の問題。そもそも入所施設も含めた居住支援のあり方の見直しや、体制の強化が必要ということもあると思いますが、できることから一歩でも、という想いです」

マエダ　「それでは最後に、なにわの里、なにわの里のスタッフへの期待などがありましたら」

山田さん「はい。砂川で現場の支援をしていた頃から、皆さんの地域に密着された専門的な実践に注目していました。今後も、大阪の障害者福祉の発展に共に尽力いただければと思います」

今回も、もっと詳しくお伝えしたい内容が多々ある中、山田さんのお立場上、掲載を控えさせていただいた内容も大幅にカットし(笑)、超々コンパクトにまとめさせていただきました。

アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や

支援ツールを紹介するコーナー

【ツールの説明】
- タブレットで見たい動画を伝えるときに使用する。
- 数種類の動画のカードからそのときの気分でカードを選び、スタッフに渡す。

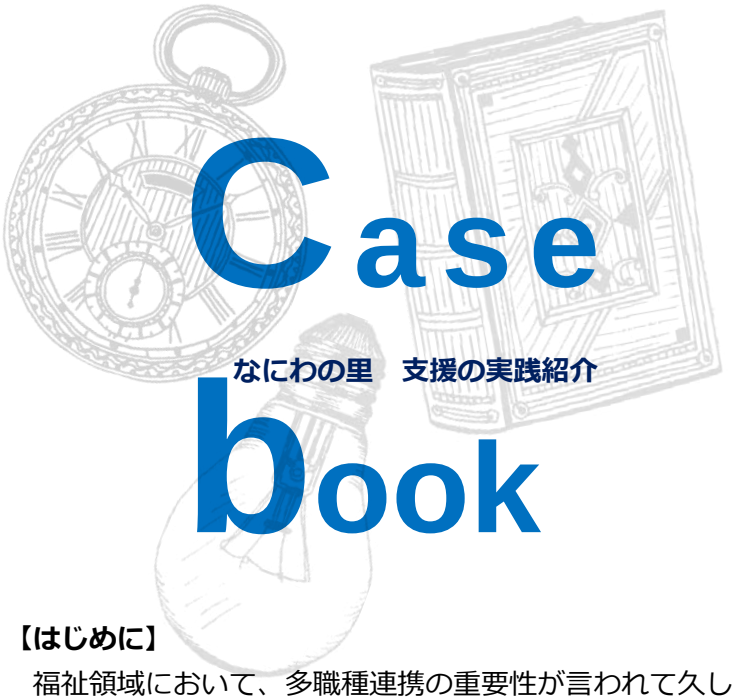
【ツールのメリット】
- 言葉が話せなくても相手に要求を伝えることができる。
- そのときの気分で見たい動画を選ぶことができ、充実感アップ！！

『　〇〇の動画をつけてください　』

この部分を渡す

atelier naniwa

（　通所１係　梅林　真由子　）



体重減少のための勉強会

～太りやすいことを知ろう！～

入所 GH 支援 2 係　飛瀬啓佑

【はじめに】

福祉領域において、多職種連携の重要性が言われて久しくなります。支援者も一人の人間であり、人の人生という大きな分野に取り組むには、単独では限界があります。そこで、異なる知識を持つ専門職同士が協力していくことが、より良い支援をしていくために大事なのだと思います。

なにわの里には支援員以外に、管理栄養士や看護師が勤務しています。今回は、グループホームで実際に管理栄養士と多職種連携を行った事例をご紹介します。

【A さんの紹介】

A さんは、なにわの里のグループホームを利用している、知的障害をお持ちの 46 歳男性の方です。人と関わるのが好きな方で、グループホームではよくスタッフや他利用者の方と会話をしています。

【今回の支援を行った経緯】

A さんより、平均体重にしたいと希望がありました。A さんの課題は、大量の飲食物を購入して食べることであると考えられました。A さんは週末に買い物に行きます。A さんは甘いものが好きで、購入する品物の多くは、太りやすい物でした。そこで、管理栄養士に協力を仰ぎ、A さんと管理栄養士で勉強会をすることにしました。

【勉強会の実施】

勉強会の目標を「栄養についての知識を身につけることで、購入するものに変化が見られる」としました。A さんの目標である「平均体重にする」に対して、勉強会の内容を強制的にするのではなく、A さん自身が必要な知識を身につけることで、目標に向かって行けるように支援をしたいと思い、このようにしました。勉強会は、以下のような設定で行いました。

- 頻　度：月に一度程度
- 場　所：A さんの居室
- 参加者：A さん、管理栄養士、生活支援員

【勉強会の様子】

支援開始から本稿執筆までの期間中、勉強会は 3 回行いました。

〈1 回目〉目的：A さんに太りやすい行動を知ってもらう

栄養士が A さんに 伝えた内容	【どのようなことをすれば太るのか伝えた】 ・一般的に太りやすい食べ物を伝えた。 ・A さんが購入したレシートを見て、太りやすいものを一緒に確認した。 ・少量でもお菓子を毎日食べていると太っていくため、食べる頻度を減らすことを提案した。
A さんの様子	・管理栄養士の話を頷きながら聞くなど、真剣な様子がうかがえた。 ・時折、言葉に詰まりながら返答したりする様子がうかがえた。

→1 回目勉強会後の様子

お菓子を買わない週や、ブラックコーヒーを買うことがあった。

〈2 回目〉目的：経過観察と本人へのフィードバック

栄養士が A さんに 伝えた内容	【本人へのフィードバック】 ・購入したレシートを一緒に確認した。 ・飲食物の購入数が減少していたため、順調であることを伝えた。
A さんの様子	・褒められた際、嬉しそうに笑顔を見せることがあった。

→2 回目勉強会後の様子

勉強会 1 週間後より、チョコや甘い飲み物をたくさん購入することがあった。

〈3 回目〉目的：2 回目の勉強会を踏まえた上での経過観察とフィードバック

栄養士が A さんに 伝えた内容	【購入傾向について伝える】 ・購入したレシートを一緒に確認した。 ・A さんの購入傾向として、同じお菓子を 2 つ以上買うことが多いため、そこを 1 つにしてはどうかと伝えた。
A さんの様子	・管理栄養士からの話を頷きながら聞くなど、真剣な様子がうかがえた。

→3 回目勉強会後の A さん様子

1 週間後にお菓子を大量購入することがあったが、約 3 週間後は、お菓子を時折購入するのみであった。

【まとめ】

今回の支援は現在も継続中であり、結果が見えてくるのはこれからだと思います。しかし、支援開始前は毎週大量のお菓子や飲み物を購入していたので、その機会が減少していることを考えると、大きな変化だと捉えています。

また、管理栄養士と連携することで専門的視点から意見があったこと、直接 A さんと管理栄養士がやり取りする機会を作れたことが、今回の良かった点であると思います。担当者一人では足りない所を補って目標に向かっていく、多職種連携の大事さを実感した支援でした。今後も継続していき、管理栄養士と連携しながら、A さんと支援を作っていければと思います。

ジムインこいけのなんでも日記

根っこと幹を大切にして

時事ネタになってしまうのですが、先日NHKのクローズアップ現代でボクシングの村田諒太選手の特集が組まれていました。その番組の中で、村田選手がきれいな桜の木を見ながら「大事なのは、ここなんでしょうね」とその太い幹と立派な根をさわりながら仰っていました。

私は4月から学校に通い始めたのですが、娘(小6)から「お父さんはなんで今から学校に行くの?」と尋ねられたのです。村田選手の番組を見る前だったのですが、ちょうどそのころに読んだ本に「植物のように生きよう」という文がありました。地面に根を張って、幹をしっかり持って、しなやかに枝や葉を茂らせ、いつかきれいな花を咲かせる、そんな生き方ができたら、ということが書かれていました。「お父さんは自分の根っこや幹を大切にするために学校に行くんだと思う」と答えると、娘もなんだかうれしそうに「うん」と言ってくれました。

これまで17年働いてきて利用者さんから教えていただいたこと、ご家族から励ましていただいたこと、仲間から大切にしてもらえたこと、そんなことの意味を「研究」というかたちで考えることができたら、と思うのです(偉くなりたいとか、名を揚げたいとかそういうことではなくて、でもこの3年で自分がすることを正確に書くのならば、その言葉になると思うのです)。そんなに甘いものではないのでしょうし、つまずくこともあると思うのですが、自分のペースで一歩一歩考えていけたらと思っています。どんなかたちで花になるのか、自分でもまだわからないのですが、今は根と幹を大切にしていこうと思います。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々

2022年1月1日～3月31日　　(敬称略・順不同)

(法人の部)

なにわの里と歩む会

(個人の部)

井上 政二　坪田 憲裕　坪田 博和　井上 明子　小畑 チヅ子　小島 純子

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

石谷　友美
（サテライト
通所支援２係）

― 石谷さんが対人援助の仕事をしたいと思ったのはなぜだったんですか？

自分が保育園に通っていた時の先生が大好きで、小学校、中学校とずっと保育士になりたいと思っていました。子どもも大好きだったし、保育士になろうとその資格がとれる大学に入ったんです。

― なるほど。そんな中で障害のある方の支援、なにわの里という場所で働くようになったのは？

大学4年生のときに単位取得のために、高齢者の方や障害のある方の施設に実習に行くことになり、その実習先がなにわの里でした。最初は障害のある方の支援にはそこまで関心はなかったんです。でも、利用者さんと関わる中で「あれ、なんでこんなことしはるんやろ」とか「どうしてかな」と興味を持つことができて、楽しそうだなと思えました。

また、職員さんが自分に向き合ってくださったというのが大きかったです。ある利用者さんの行動について説明をしてくださったことがあって、すぐには納得ができず、「でも、自分はこう思うんです」とその職員さんに伝えたことがありました。それに対して、きちんと向き合ってくださって、こんな先輩にもっと教えてもらいたいと思ったこと、またしんどいことがありながらも笑顔で利用者さんと接している職員さんがいたことが、なにわの里で働きたいと思った理由でした。

― ９年目に入って、石谷さんが思うこの仕事のやりがいってどんなことでしょうか。

一言で答えるのはなかなか難しいのですが、利用者さんがゆっくりと過ごしておられる、落ち着いてくつろいでおられる、そんな姿を見ることができたときに、やっていたよかったなと思います。

今は育児短時間で勤務していて、最初はなかなかペースがつかめなかったけれど、少しずつ自分のスタイルもできてきたように思います。みんなに助けてもらって感謝の気持ちです。

― そんなふうに言えることが石谷さんの強みだと思うし、また石谷さんが支援している姿を後輩たちが見て、たくさんのことを学んでいます。石谷さんがみんなを助けてくれているし、僕自身もたくさん助けてもらっています。そんな助け合いの中で、あたたかい支援を続けていきたいですね。

第 106 号
2022 年 5 月 20 日発行
発行責任者　前田研介

社会福祉法人　なにわの里
〒582-0025　柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202
E-mail　naniwa@naniwanosato.jp
HP http://naniwanosato.jp

Facebookでチェック

右の QR コードから
かんたんアクセス！